

ふくちやまCAP

2019年度 事業報告

(2019年4月1日～2020年3月31日)



目次

2019年度 総括.....	3
振り返り	3
今後の活動.....	3
2019年度の主な活動.....	5
地域ワークショップおよび相談の場の創出	5
<「つながって安心な子育て」京都府・児童虐待防止地域推進事業>	5
<「つながる一む」こくみん共済 coop 地域貢献助成事業>	6
学校・園におけるワークショップの実践.....	8
<就学前プログラムの実践>	8
<小学生プログラムの実践>	11
<施設向けプログラムの実践>	12
研修講師	14
スタッフのスキルアップ技術向上.....	15
啓発活動	17

○ CAPのこと

CAPとは、【Child Assault Prevention】＝〔子どもへの暴力防止〕のことです。

CAPプログラムとは、子どもがいじめ・虐待・体罰・誘拐・痴漢・性暴力など様々な暴力から自分の心とからだを守る暴力防止のための予防教育プログラムのことをいいます。

◆CAPプログラムとは

CAPプログラムとは子どもがいじめ・虐待・体罰・誘拐・痴漢・性暴力など様々な暴力から自分の心とからだを守る暴力防止のための予防教育プログラムです。

そして、CAPプログラムは「子どもの大切な3つの権利（あんしん・じしん・じゆう）」をいじめ・虐待・性暴力などの暴力で脅かされることから子どもを守るために何が出来るのかを、保護者、地域のおとな、教職員、そして子ども自身に伝え、共に考える中で、子どもの人権意識を育て、子どもの“内なる力”を引き出す役目を持っています。

そのため、CAPプログラムでは

- ◆ 教職員ワークショップ
- ◆ 保護者（地域）ワークショップ
- ◆ 子どもワークショップ（就学前・小学生・中学生暴力防止・障害のある子どもたち・社会的養護のもとに暮らす子どものプログラムが用意されています）

の3つのワークショップで暴力防止にアプローチしていきます。これらのワークショップが地域・保護者・学校それぞれにおいて繰り返し実施されることで、よりCAPプログラムを活かすことが出来るのです。

2019 年度 総括

振り返り

私たちは2003年にふくちやま CAP を立ち上げ、学校や園、施設などで CAP プログラムを行うことにより、子どもへの暴力防止の活動をしてまいりました。ここ数年、社会では児童虐待が深刻な出来事としてとらえられており、特に昨年度末からはコロナウィルス禍において STY HOME という言葉のもとに、会社はテレワークを実施し、学校は休校になる中で、家庭内での DV や虐待が増加し、子どもへの暴力防止への関心はこれまでにないほどに高まってきております。

この2年、ふくちやま CAP が各地域に向けて行ってきた虐待防止啓発活動は、CAP のワークショップの依頼と実施につながり、少しずつではありますが、CAP の活動の有効性が認められてきております。

また、継続して開設を続けている「つながる一む」(子育て相談の場)では、養育者への顔の見える寄り添う支援と、子どもの人権を意識した子育てについての情報を得る場の必要性が再認識されました。

さらには、障がいのある子どもに向けての CAP のプログラムの実施により、「社会的支援が必要な子どもとそれに関わる大人たちへの人権教育は、日常での細やかな関わりを通して育まれるものである」ことを、教育現場の人たちや施設で子どもたちと関わる人たちなどと共有することができました。

誰もが人権を大切にし、大切にされる町づくりの実現のためにも、CAP ワークショップを継続して実施できる体制を作っていかなければと思っております。

今後の活動

2020年4月から適用が始まった改正児童虐待防止法の中で、親は「児童のしつけに際して体罰を加えてはならない」とし、さらに児童福祉施設の施設長らによる体罰も禁止されることになったことをうけ、体罰の全面的禁止の啓発にもつながる「しつけと体罰の違い」「子どもとの関わり方」などを考える保護者(地域)・教職員ワークショップをさらに実施する必要があると考えています。そのためには各地域・行政に、虐待防止における CAP プログラムの有効性を伝え、また、子どもには、いじめや虐待などの暴力から、心と身体を守るために何ができるか、自分を大切にし、相手を大切にするとはどういうことなのかを分かりやすく楽しく伝えるため、寸劇を用いたワークショップの中で「みんなで体験して考える CAP プログラム」を提供していきたいと考えています。

今年度は、保育所・子ども園・幼稚園を中心に実施してきましたが、実施後のアンケートでは、「子どもたちが小学生になる前に、自分を守る方法や友達を守る方法を知っておいて欲しかった」という保護者の意見が多く寄せられました。やはり、CAP プログラムは小学校に入る前の子どもたちや保護者から実施していくことが効果的であると感じました。

今後は、教育委員会や市、府の子育て支援課など、行政と連携し続けられるような仕組みを構築するため、ふくちやま CAP のメンバー一人ひとりが力をつけると同時に、組織としても成長していきたいと思

っています。

また、昨年度末からの新型コロナウイルス禍における新たな支援として、今後は with コロナという新たな環境の中で、徹底したコロナ対策と共に、対面とオンラインを上手くミックスした支援の方法を考えていかなければならないと考えています。

2019年度の主な活動

地域ワークショップおよび相談の場の創出

⇒地域で子育て中の親や保護者、地域の人にワークショップを体験してもらい、話し合う場を創出

<「つながって安心な子育て」京都府・児童虐待防止地域推進事業>

～わたしも 子どもも ハッピーになる保護者ワークショップ～

活動内容：CAPプログラムを構成するアプローチの一つである「保護者ワークショップ」を行い、しつけなど子育ての悩みや虐待などについて話し合うことで、子どもが暴力から心とからだを守る暴力防止につなげる

予算：150,000円

日時：2020年1月23日・30日・2月6日（計3回）

（いずれも木曜日 午前10時～12時）

場所：福知山市立丘児童センター

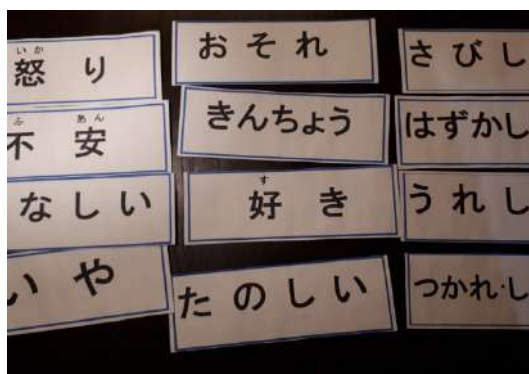
参加人数：延べ18人

（受講者からの感想・意見の集約）

- ・じっくり学べる場、皆さんと語り合える場が見つかりとても安心しました。「つながる一む」も初めて知りました。次回も楽しみです。
- ・とても分かりやすかったです。どんどん胸に刺さってきました。日頃の子育てを見直すいい機会となりました。
- ・参加できて良かったです。子どもに対して、どうしても教える立場、命令する立場に立ってしまって、相手の立場に立って考える力を大切にしていきたい。
- ・話し合いの時、しゃべっていたら少しずつ自分の中で整理されてすっきりしました。
- ・虐待の連鎖を防ぐためにも、誰かに話し聞くことが分岐点になるのはとても参考になりました。
- ・教えていただいたことを胸に、家に帰って子どもと接しようと思いますが、いざとなった時にはイライラしてしまうこともあります。自己肯定感を高めたいと思う気持ちはかなり強い方だと思いますが、「うまくいっていないなあ」と感じています。



「気持ち」を知るワークショップで使用したパネル



参加者の「あんしんの木」



(振り返り)

子どもも一人の人であり、親の思い通りにはならないものだを知ってもらい、どのように声をかけ関わるのが子どもの自己肯定感を育てることになるのかの具体的な方法を伝えた。

また、お母さん同士で話す場（話を聴いてもらえる場）では、困った時どうしたらいいか、どのように考えることが、子どもも親も安心できるのかを感じてもらえたと思う。そのことを基に、今後も「つながる一む」に参加し、繰り返し学ぶことが虐待とならない子育てを身につけることにつながると考える。

そして、今回保健師をはじめ、民生児童委員等にも参加していただいた中で、お母さん一人で抱え込まずにいつでも専門家に相談できるということを知ってもらえた。

終了1ヶ月後の講座については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止にしたが、SNSのグループでつながることにより、心配なことや不安な気持ちを互いに出し合う環境が整ってきている。

<「つながる一む」こくみん共済coop 地域貢献助成事業>

活動内容：育児相談など、安心して子どもを育てるための支援を行い、虐待や暴力のない、子どもの権利が大切に守られる社会を作ることを目的とし、毎月第一水曜日に、子育て中の親に呼びかけて少人数でワークショップを行い、育児の悩みやストレスを話し合ってもらう場、虐待と躰の違いや親子で過ごす時間の大切さなどを伝える場を創出している。また、要望に応じて子育て中の家庭又はその近くまで出向いて子育て相談に応じる、「出張つながる一む」を実施している。

予算：30万円

日時：毎月第1水曜日、10時～12時

場所：たんたんスペース福知山・福知山学園

参加者：毎月1組～4組程度



(振り返り)

京都府・児童虐待防止地域推進事業「つながって安心な子育て」で繋がった方やホームページを見て参加された方が、安心して集い、子育ての様々を話し合う場所になっており、顔の見える関係ができつつある。今後は、出張つながる一むをさらに充実させ、より多くの人に参加してもらえる体制を整えていきたい。

*たんだんスペースでの様子 (子どもたちの様子)



開けたり～閉めたり～♪



すっくと立って、いい笑顔



学校・園におけるワークショップの実践

<就学前プログラムの実践>

1. かえで子ども園（与謝野町）

◆保護者向けワークショップ

日時：7月12日（金）

参加人数：31人

◆子ども向けワークショップ

日時：9月3日（火）・5日（木）・6日（金）

参加者：年長2クラス（真如苑 子どもの生活支援基金）



保護者向けワークショップを親子クッキングの行事と合わせて実施。

私たちCAPのメンバーも
かわいい「鬼さんカレーライス」を
一緒にいただきました。



◆教職員ワークショップ（2018年度に実施）

（保護者からの感想・意見の集約）

・まだ幼い子どもたちなので悪気なくお友達を傷つけてしまったりすることもあると思います。それがこの先いじめに繋がることもあるので、子どもたちにわかりやすい劇などをみて相手の気持ちを考える機会になればいいなと思います。

・否定するのではなく、肯定する言葉を使うことが、子どもにとってわかりやすいということがわかりました。

・全ての人に平等に権利があることを、子どもの時から知っていることは大事なことだと思いました。

・子どもだけでなく大人にとっても生きていく上でとても大切なことが詰まったお話を聞かせていただきました。ぜひ、子どもたちにも聞かせてください。

（振り返り）

園の協力を得て、より多くの保護者が参加していただけるよう、親子でカレーライスを作る行事と合わせて「CAP 保護者向けワークショップ」を実施した。

保護者向けワークショップの中で、「子どもワークショップ」の一部を模擬体験してもらった。5歳の子

どもになりきって思いを伝えるという体験を通して、子どもの目線で考えることが大切な視点だと感じていただけた。

2. 舞鶴中保育所（舞鶴市）

◆教職員ワークショップ

日時：10月30日（水）

参加人数：28人

◆子ども向けワークショップ

日時：10月11日（月）・12日（火）・13日（水）

参加者：年長2クラス（真如苑 子どもの生活支援基金）



（教職員からの感想・意見の集約）

- ・自分の心も身体も大切であることが、子ども自身に深く理解されると将来、身を守ることや自己肯定感の向上にもつながると感じた。
- ・「いや」なことを「いや！」と言うのはいいことだ。頼れる存在を知ることが出来た。
- ・小さな子どもにとって、難しいかな？と思われるような「権利」について、視覚に訴えるイラストを使って、とてもわかりやすく具体的に話し教えてくれるところがよかったです。
- ・子どもが権利を知ることが今後生きていく上でとても大切なことだと思いました。
- ・担任や保育所職員以外の第三者の目から、子ども1人ひとりの様子を見たり聞いたりしていただき、今後の子どもの背景も含めた保育に役立てていきたい。
- ・権利という意味、たくさんの権利があること、こどもが持っているいいことを、改めて知りました。
- ・自分に出来る事が明日からある、今からでもあるということに改めて気づきました。
- ・子どもが自分の気持ちを安心できる人に伝えられることが大切
- ・目で見て、自分の口で暴力のこと、気持ちの事を具体的に話したり聴いたりできることで、自分はどんなだろうと振り返ることができる。
- ・一人一人を大切に、日々の言葉がけなど気を付けたいと思いました。また、仕事の的にも保護者や子

どもさんの支援者になれるとよいと思いました。

- ・大人に子どもの権利を奪っている意識が低い事が多々あると思われる。大人への啓発は大切。

(振り返り)

日々の保育の中で、教職員の方々が「安心、自信、自由」を大切にされていることが伝わってきた。今回の「教職員ワークショップ」で深めた専門知識を、保護者の方への支援・対応にも役立てていただければと思っている。

3. 福知山幼稚園（福知山市）

◆保護者向けワークショップ

日時：12月17日（火）

参加人数：11人

子どもに「CAPプログラム」を受けさせたいという保護者の熱い思いから、このワークショップが実現した。

(保護者からの感想・意見の集約)

- ・いやな感情は出しにくい。子どもにもイヤな感情のだしかたを見せることも大切だということ。・言葉のかけかたで、子どもの心が豊かになるところ。
- ・どのように関わっていくことが、子どもの自尊感情や自己肯定感を高めることになるのか、よくわかった。
- ・子ども自身が自分を大切に思う気持ちがあることで、暴力から逃れることができるのだということがわかりました。

◎子どもへのワークショップの必要性について（保護者からの意見）

- ・私の言い方だと伝わらないことも、CAPの劇や話し方は子どもも心に入っていきやすいと感じました。
- ・子どもも園という社会でいろいろもがいているので、子ども手助けに、自分の身を守る方法や人への対応も学べると思うので、「子どもワークショップ」を実施してほしいと思います。
- ・自分を大切にしてほしい。イヤと言えるようになってほしい。
- ・子どもの人権を知り、いじめない、いじめられないように過ごせるようにしてほしい。
- ・自信を無くすことが時々あるので、親以外の言葉からも安心してほしい。

(振り返り)

京都府からの委託事業である「つながって安心な子育て」でつながっていた保護者から、子どもたちに対してCAPワークショップを受けさせたいとの要望を伺っていたことと、小学生になる前に、子どもた

ちにCAPワークショップを受けてほしいという園長の思いが重なり、今回の保護者へのワークショップの実施につながった。

子どもワークショップについても実施を予定していたが、今年度は、コロナウイルス感染拡大予防のため、見送ることになったため、次年度ではぜひ実施したいと考えている。

<小学生プログラムの実践>

1. 小倉小学校（宇治市）

◆教職員ワークショップ

日時：11月27日(水)

参加人数：4人

◆子ども向けワークショップ

日時：12月3日(火)・5日(木)

参加者：1年生4クラス（京都府いのちとこころのコミュニケーション事業）

【小倉小学校ホームページより】



2. 和知小学校（京丹波町）

◆教職員ワークショップ

日時：2020年1月23日(水)

参加人数：4人

◆子ども向けワークショップ

日時：2020年1月31日(金)

参加者：4・5・6年生（京都府いのちとこころのコミュニケーション事業）

(振り返り)

どの学校においても、子どもたちは思っていることを素直に発言し、寸劇にも積極的に参加してくれた。子どものアンケートでは、「不審者に対して、どういうことが自分にできるのかを知り、安心しました。」の声が多く、自分自身を守る力を確信し、自分に自信が持てたようである。

このように、子ども自身が自分を守る力・方法を知ったことは、いじめなどの暴力のないクラス・学級づくりの一步になる。

また、同時に保護者（地域）向けワークショップを実施することで、さらに子どもたちの命と心を守る事業になると考えている。

<施設向けプログラムの実践>

1. 峰山乳児院・てらす峰夢（みねやま福祉会）（2002年より継続）

◆教職員ワークショップ

日時：7月13日（土）

参加者：18人

◆子どもワークショップ（小学生）

日時：7月13日（土）

参加者：12人

(教職員からの感想・意見の集約)

- ・子ども相手にわかりやすい言葉で、なかなか家や学校では教えてもらえないことがあった。
- ・「いやだ」と言えることの大切さ、言っていていいということを知らせてあげられる。
- ・人権の大切さがよくわかりました。
- ・実際に自分の権利が奪われそうな場面で、どうすればいいのかを劇で伝えていたところがわかりやすい。
- ・自分だけではなく、相手も思いやる心が芽生えると思う。
- ・児童養護施設などで行うことは、効果的だと思う。
- ・いじめが大人になってもあるとか、大人の直すべきところも伝えてもらえることで、子どもばかりが悪いのではなく大人も直すよ、だから子どもも直してみようという強制的でない考え方ができると考えました。
- ・現在、養護施設で働いており、虐待を受けた子どもの心理が本当によくわかりました。この学びを活かしていきたいです。
- ・権利の話となるときりがないと思いますが、子どもが安心できる環境を作れる保育者になりたいと思いました。

2. むとべ翠光園（福知山学園）

◆教職員ワークショップ

1回目 日時：10月17日（木）

参加者：10人

2回目 日時：12月4日（水）

参加者：10人

◆スペシャルニーズワークショップ（中学生・高校生）

日時：12月21日（土）・22日（日）・23日（月）

参加者：12人

（スペシャルニーズワークショップで使用するパネル・アンケート用紙・小道具等）



（教職員からの感想・意見の集約）

- ・2回のワークショップで児童研修について主に考えました。担当の利用児が「いや」と自己表現できるようになれば、すごく嬉しいです。
- ・これからも複数年にわたって取り組んでいきたい内容であると感じました。
- ・安心・自信・自由について、もっと子どもたちと話そうと思いました。よく考えられている劇でした。職員間でのコミュニケーションやロールプレイも必要だなあ～と思いました。
- ・子どもへのプログラムについて、アタッチメントについて、よくわかりました。

◎子どもへのワークショップの必要性について（教職員からの意見）

- ・1回目の時は子どもには難しいかなーと思っていましたが、劇とかもあってわかりやすいと思いました。
- ・普段萎縮している子どももいます。スタッフに気を使っているのだと思います。（これまで大人の顔色を見てきたこともありますので、）
- ・自分の気持ち「いや」の伝え方を知らせてもらうことで、気持ちの表出の仕方を学んでもらえる機会になると思います。

（振り返り）

今回事業を実施した施設は、18年継続されているところと今回初めて実施した施設があった。どちらの職員の感想に、「継続することが、子どもたちの人権意識が大切にされる場をつくることになる」との声があるように、継続することの必要性を実感していただけたと思う。

私たちも施設の子どもたちや彼らに関わる大人たちにCAPプログラムを届け、どの子どもたちにも「安心・自信・自由」は平等にあるのだということを知ってもらいたいと感じた。

研修講師

1. 佛教大学

教職員を目指す学生に向けて、CAP教職員ワークショップを実施。

日時：6月26日（水）

参加者：学生53人、教員2人



（振り返り）

佛教大学で将来教育や福祉に携わる学生に、子どもの人権を中心に〇〇について講義した。

将来子どもたちに接する職に就く一人の大人として、子どもの権利を奪うものにならないように、子どもたちに掛ける一言一言を大切にしようと思ってくれた学生が多く、心強く感じた。また、バイト先で人権侵害にあっていたり、過去に虐待を受けていたことを、学生自身が初めて気づくなど、子どもの頃には特に気づかないうちに人権が侵害されていることが多いということを学生が理解したことは大きな成果だと感じた。

スタッフのスキルアップ技術向上

【子どもの権利・おとなの役割子どもの力を信じる】

講師：小宮山健治さん

日時：5月25日(土)

主催：NPO法人 CAPセンター JAPAN

【多様な性と共に生きる～LGBTについて】

講師：堤あやかさん

日時：6月26日(水)

【ひきこもり支援研修】

日時：9月3日(火)

主催：NPO法人 ニュートラル

【不登校について考える会 研修】

講師：奥地圭子さん（NPO法人東京シューレ理事長）

日時：7月26日(金)

主催：福知山市（参画メンバー）

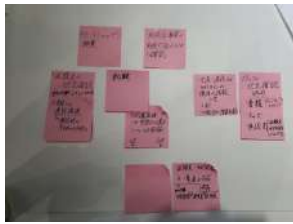
【NPOのための事業・活動継続計画（BCP）策定講座】

講師：虎屋敷哲也さん

日時：9月19日(木)

主催：NPO法人 京都丹波・丹後ネットワーク

(ワークショップ中のグループ内シェアの様子)



【医師の立場から見た児童虐待～市民病院で経験した事例を中心に～】

講師：小児科医師 足立晋介さん

日時：10月23日(水)

主催：福知山市要保護児童対策地域協議会（代表委員を務める）

【みんなが参加しやすい場のつくりかた講座】

講師：松尾やよいさん

日時：11月14日(木)

主催：福知山市（人権推進室・参画メンバー）

【サバイバーが語る性暴力・DV・虐待～心の痛みに気づき自分らしい生き方を見つけるまで～】

講師：柳谷和美さん

日時：11月11日(月)

主催：福知山市要保護児童対策地域協議会（代表委員を務める）

【人ごとではない LGBT】

講師：あかた ちかこさん

日時：12月17日(火)

主催：はばたきネットワーク

【子どものきもち・大人の気持ち】

講師：奥地圭子さん（NPO 法人東京シューレ理事長）

日時：12月21日(土)

主催：不登校について学ぶ会（参画メンバー）

【子どもの貧困の連鎖を断つために～支援者に求められること～】

講師：道中 隆さん

日時：2020年1月25日(土)

主催：福知山市保育協会

共催：福知山市要保護児童対策地域協議会（代表委員を務める）

（振り返り）

今年度もふくちやま CAP の活動をより良いものとするため、様々な研修に参加した。常に新しい情報を取り入れ、子どもの人権が尊重される社会をつくるためには何が必要で自分たちには何ができるかを考え続け、今後の活動に活かしていきたいと思う。

また、活動継続計画（BCP）を策定する中では、自分たちの団体が防災に際して何ができるか、災害時にどう動けば良いのかを話し合い、計画にまとめることが出来た。

啓発活動

啓発用パンフレット（2017年度に作成）の配布

（真如苑 子どもの生活支援基金）

活動内容：保護者や教育関係者、地域の人たちが、子どもへのいじめや虐待、性暴力などの実態を知り、子どもの権利を守り、子どもを暴力から守るために何が必要かを知っていただくために、直接訪問・イベント参加してパンフレットを配布する。

主な配布先

- ・京都府庁
- ・京都府中丹広域振興局
- ・京都府北部保健所（中丹西保健所・中丹東保健所・丹後保健所）
- ・京都北部家庭センター
- ・福知山市（子育て政策室・図書館・児童館・人権推進室・地域コミュニティセンター）
- ・福知山市内各店舗等（明智茶屋・サンホテル・大嶋カーサービス他）
- ・舞鶴市（子ども支援課・子育て交流施設あそびあむ）
- ・綾部市（子育てネット綾部・図書館）
- ・京丹波町内店舗等（絵本ちゃん・和知道の駅他）
- ・京丹後市地域子育て支援センター
- ・宮津市子育て支援課・与謝野町子育て応援課
- ・京都性暴力被害者支援ワンストップセンター京都 SARA

イベント時の配布

- ・ 福知山市児童館まつり「やんちゃフェスタ」
- ・ music & 手作り市 Friends（福知山市後援）
- ・ まいてフェスティバル（舞鶴市）
- ・ 関西 CAP 連絡協議会

写真（イベント時にパンフレットを配布）



（振り返り）

啓発用パンフレットは、行政機関等への配布のほか、福知山市や舞鶴市で開催されたイベント時にもブースを設けて配布したが、直接子どもたちと触れ合う中で、話を聞く体験、聞いてもらう体験をしてもらった。この体験を通して、子どもたちに家族以外にも困っていたら助けてくれる大人がいていつでも相談できるということを伝えられたことは大きな成果であった。

また、大人に対しては、パンフレットを活用しながら子どもへの虐待やドメスティックバイオレンスが、子どもの体や心に与える影響について伝えることが出来た。また、CAPプログラムの効果について、地域の人・教育関係者・保護者など様々な人に知っていただく良い機会となった。

今後もこのような機会を少しでも多く作っていきたい。